



教授
山崎 圭一

ヤマザキ ケイイチ



大学院国際社会科学研究院 国際社会科学部門
yamazaki-keiichi-zg@ynu.ac.jp
http://park23.wakwak.com/~latin_america/index.html

【研究概要】

ラテン・アメリカのブラジルを中心に、発展途上国の都市政策を研究しています。とくに都市の住宅市場と公共的住宅の供給システムの国際比較に最近は焦点を当てています。公共住宅の提供には財政政策と金融政策が関係しますが、後者については強制貯蓄を原資とする公的開発金融のメカニズムが活用される場合があります。中国の公積金制度、日本の財政投融資制度などがありますが、ブラジルではFGTS（就業年限保証基金）という強制貯蓄の資源が動員されています。財政、金融ともに弱い途上国では、公的住宅供給の実績が限定されており、UNHABITATによれば世界の不良住宅数（いわゆるスラム街）は近年増えています（一部は紛争難民の増加が要因）。この問題の緩和にむけての公共政策をめぐる諸問題を研究しています。

【アドバンテージ】

私の研究は、現地密着型で、とくに地方市場に力点を置いている点に優位性があります。実際の事業の展開は、特定の都市と農村といった空間で展開されるわけで、その投資空間の特質（資源負損、地方税制、腐敗状況、環境規制、消費者市場など）を理解しておくことは、ビジネスにとって重要です。第2に人間開発の視点から分析しているため、環境や福祉の未来型マーケットの調査に向いています。第3に、途上国一般ではなく、人口の多い、マーケットとしての有望性の高いブラジルを専門としていることです。ただし、アジアやアフリカとの比較の視点も追究していますので、ブラジルだけを研究している専門家とは異なり、広い視野から分析ができます。第4に、市場と公的部門の双方を総合して分析している点に特徴があり、社会の変動についてより現実的な評価

ができるかと考えています。

【事例紹介】

理系ではないので、製品開発に参加した経験はありませんが、論文リストに書いたように、国際貿易投資研究所の報告書、貿易と関税、エコノミスト、ラテンアメリカ時報といった、経営者や投資関係者向けの雑誌から、よく依頼され、原稿を書いています。また投資関係企業の経営者、取締役の勉強会に招待され、講演をしています。ブラジルに関する民放バラエティ番組の内容チェックの支援や、最近では地方公共団体による途上国支援（自治体ODA）について、とくに都市廃棄物の処理支援に関する助言を行いました。

■ 相談に応じられるテーマ

ブラジル投資環境（とくにマクロ経済環境）の現況とマクロ経済政策、租税政策の動向
ブラジル投資リスクととくに公的部門の腐敗動向とintegrity system（誠実制度＝腐敗防止対策）
ブラジルの地方市場の動態と展望ととくに伸長著しい市郡と衰退顕著な市郡のマクロな動向
ラテン・アメリカの環境・福祉ニーズの把握、貧困層の社会的統合の進展度合い、貧困離脱組のマーケットの成長可能性

■ 主な所属学会

日本ラテン・アメリカ経済学会
日本ラテンアメリカ学会
日本地方財政学会
日本財政学会
日本国際経済学会

■ 主な論文

「(研究ノート) 先進国との国際比較によるブラジル住宅政策の特徴と課題」『立命館経済学』第65巻第6号所収, 2017.3
「Is Bigger Really Better? A Comparative Analysis of Municipal Mergers in Australian and Japanese Local Government」 in *International Journal of Public Administration* [DOI: 10.1080/01900692.2017.1298127] (Brian Dolleryとの共著, 2017年3月)
「(第3章) 地方の活性化とその動因」ITI (財団法人国際貿易投資研究所) 編『ブラジルの消費市場と新中間層の形成』ITI, (39頁～66頁) 2009.3

■ 主な著書

『ラテンアメリカはどこへ行く』 ミネルヴァ書房, 2017 (後藤政子との共編著)
『進化する政治経済学』 レイライン, 2013 (単著)
『リオのピーチから経済学-市場万能主義との決別』 新日本出版社, 2006.3 (単著)